



# 2030年気候目標に向けての提言

CAN-Japan

2014年9月12日(金)

参議院議員会館

発表者： WWFジャパン 気候変動エネルギーグループ・リーダー  
山岸 尚之

# CAN-Japan とは？



- オックスファム・ジャパン
- Office Ecologist
- 環境エネルギー政策研究所(ISEP)
- 「環境・持続社会」研究センター (JACSES)
- 気候ネットワーク
- 国際環境NGO FoE Japan
- 国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
- コンサベーション・インターナショナル・ジャパン
- WWF ジャパン
- 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
- レインフォレスト・アクション・ネットワーク  
(RAN) 日本代表部

# CAN-Japan 提案



温室効果ガス排出量を、  
2030年までに1990年比で40～50%削減する  
(2010年比41～51%削減)

- 再生可能エネルギー目標 + 固定価格買取制度 / 電力システム改革
- 省エネルギー目標
- 化石燃料への依存からの着実な転換 (石炭火発増設の歯止め)
- 野心的な気候変動目標と脱原子力の方針を両立

# 3つの視点



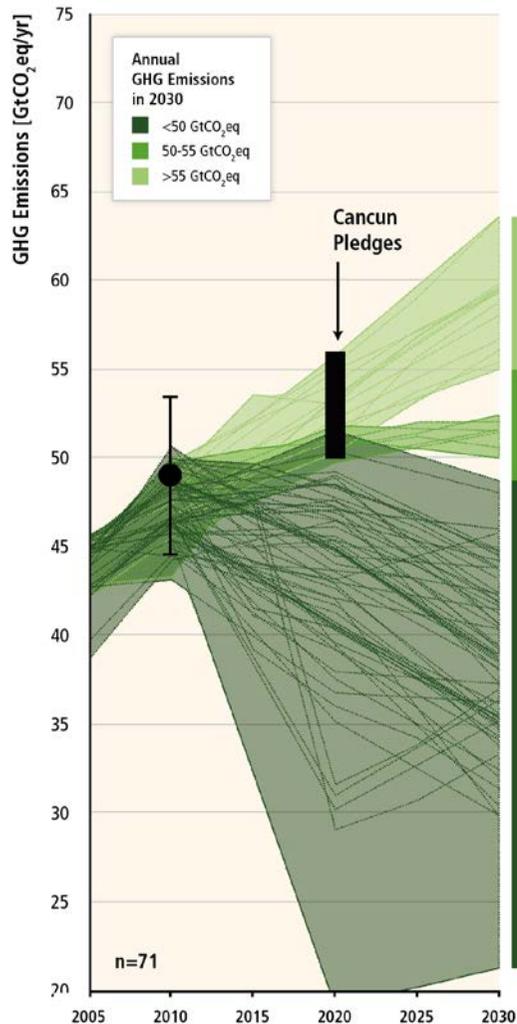
グローバルな削減量

衡平性

削減ポテンシャル

# 2030年に世界で必要な削減量

GHG Emissions Pathways to 2030



IPCC第5次評価報告書 第3作業部会の知見より

「2℃未満」達成

- 2050年までに、温室効果ガス排出量を2010年比で約40～70%削減することが必要
- 2030年時点では、世界の総排出量が約300～500億トンであることが必要。

- より高い可能性（66%より大きい）
- 1.5℃未満達成の可能性

• より300億トン（10年比39%削減・90年比21%削減）に近い排出量に抑えることが必要。

# CANの衡平性についての考え方



## CANが重視する視点

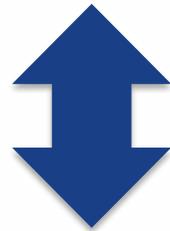
妥当性 (adequacy)

責任 (responsibility)

能力 (capability)

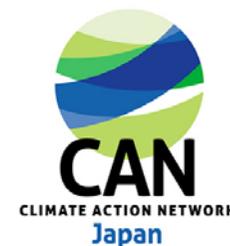
発展のニーズ (development need)

適応 (および損失と被害) のニーズ

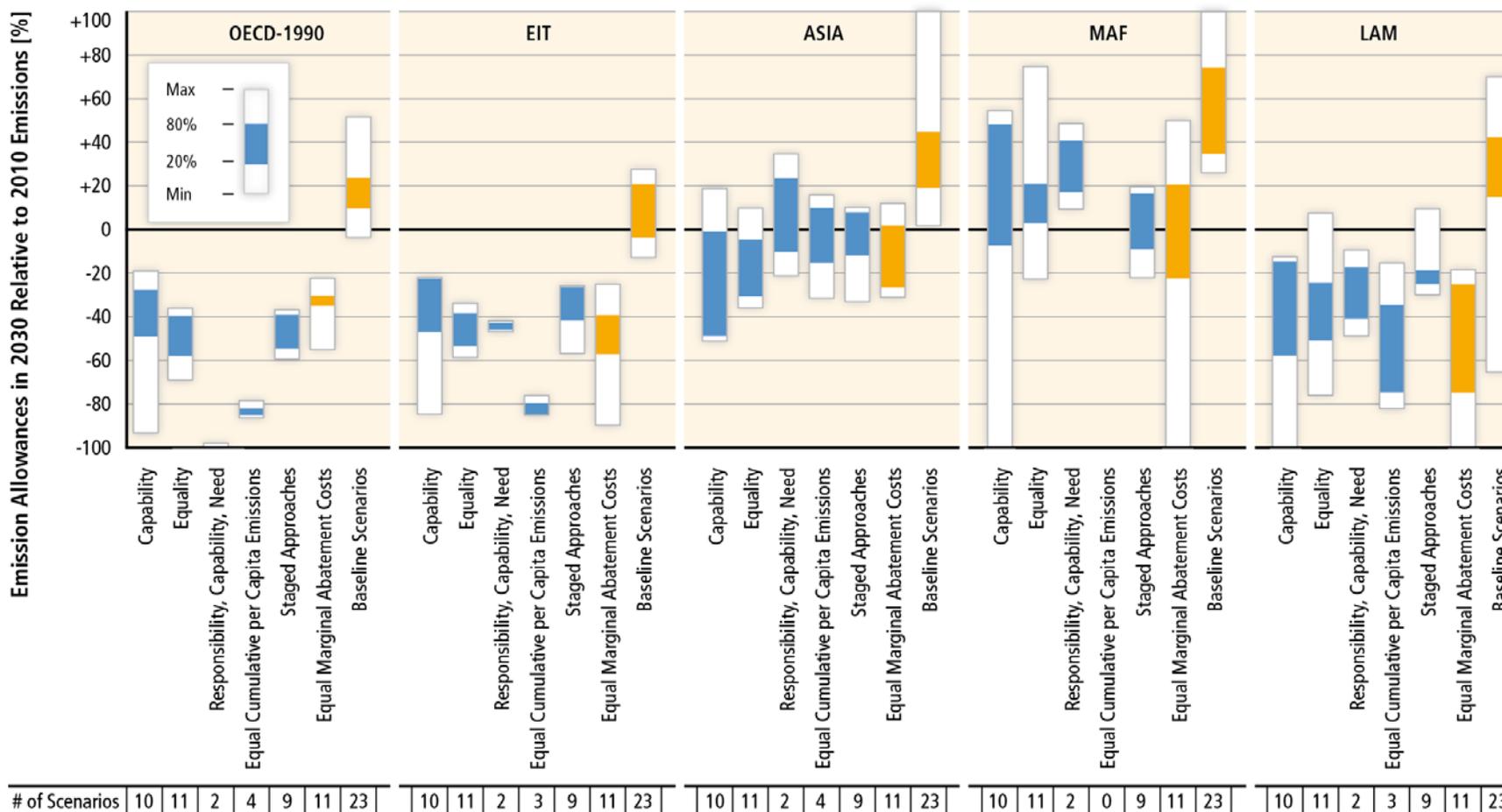


現状では、様々な考え方がある。

# 様々な衡平性の考え方のレビュー



IPCC第5次評価報告書 第3作業部会 第6章の図 (Figure 6.28)



# 衡平性に関する様々な考え方



先のFigure 6.28 の元論文からの引用

**TABLE 4** Emissions allowances over all allocation categories for Category 1 in 2030 relative to 2010 and 1990 emissions<sup>2</sup>

	OECD1990		EIT		ASIA		MAF		LAM	
As change from 2010	-37%	-75%	-28%	-53%	7%	-33%	24%	-7%	-15%	-49%
As change from 1990	-33%	-74%	-52%	-69%	100%	25%	159%	95%	-3%	-41%

Notes: Including the studies for cost-effectiveness would change the results (in particular for the OECD), towards -32% to -60% relative to 2010, instead of -37% to 75%.

- 33%削減～74%削減：いわゆる西側先進国が達成すべき削減率は、2030年までに1990年比で33%削減～74%削減（2010年比では37%削減～75%削減）
- 30%削減～58%削減：日本・オーストラリア・ニュージーランドを1つのグループとしてみた場合に、求められる削減率は、30%削減～58%削減（2010年比39%削減～61%削減）

# 削減ポテンシャル

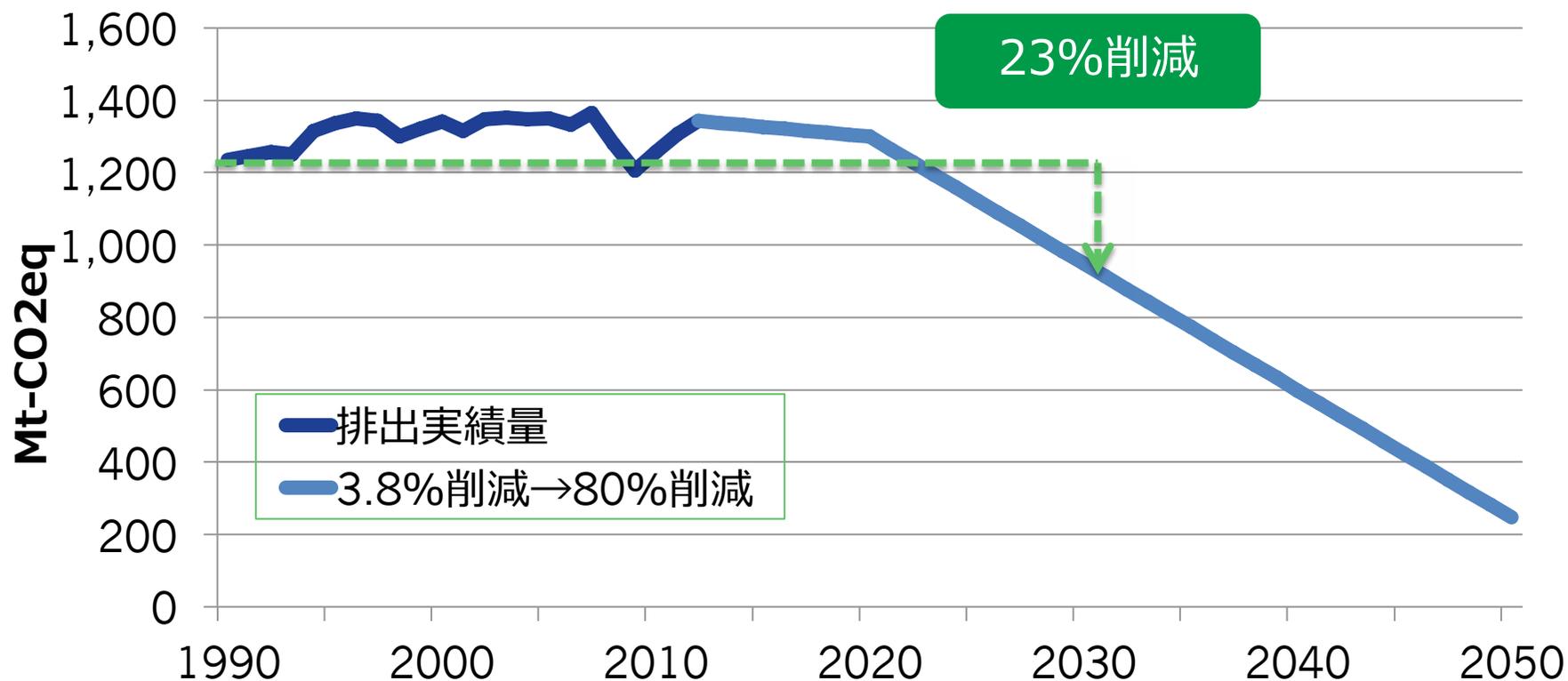


NGOのエネルギーシナリオにおける  
エネルギー起源CO2排出量削減率（1990年比）

シナリオ名	2030年	2050年
気候ネットワーク 原発にも化石燃料にも頼らない日本の気候変動対策ビジョン[シナリオ編]	-66%	-93%
グリーンピース・ジャパン The advanced energy [r]evolution	-46%	-87%
WWFジャパン 脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ提案	-58%	-100%

- おおむね1990年比で50%削減～60%削減の可能性を示している

# 2050年80%削減との整合性



- 既に閣議決定されている「2050年80%削減」と整合性をもたせるためには、1990年比23%削減は下限ととらえ、それより早いペースで削減することが望ましい。

# CAN-Japan 提案



温室効果ガス排出量を、  
2030年までに1990年比で40～50%削減する  
(2010年比41～51%削減)

- 再生可能エネルギー目標 + 固定価格買取制度 / 電力システム改革
- 省エネルギー目標
- 化石燃料への依存からの着実な転換 (石炭火発増設の歯止め)
- 野心的な気候変動目標と脱原子力の方針を両立